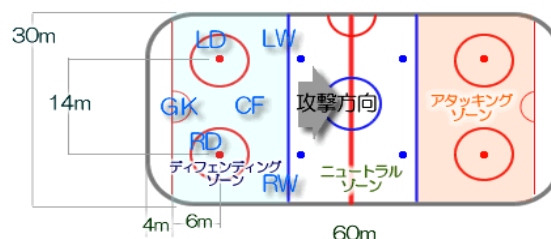


アイススレッジ

岩手県立県北青少年の家



概 要	<p>アイススレッジは、下肢障害があってもアイスホッケー競技ができるようにはじめられたスポーツである。スレッジと呼ばれるスケートの刃を2枚 つけた専用のそりに乗り、2本のスティックを両手で使い、氷上のパック（ゴム製円盤）を受渡ししながら運んで相手のゴールに入れて得点を競う競技。スティックはアイスホッケーのものを短くした形だが、漕いで前進するため、反対側にギザギザの刃がついている。</p>
場 所	スケート場
所要時間	設定なし。
準 備	アイススレッジ、スティック、パック、防具
活動内容	<p>競技は、アイスホッケーと同じ60m×30mのリンクで行われる。リンクの短辺から4m離れた所にゴールラインが引かれ、その中央に高さ1.22m、幅1.83mのゴールポストが置かれる。この両ゴールラインを3等分するようにブルーラインが2本引かれる。この2本のラインで分けられたゾーンの自陣側のゴールのある氷域を ディフェンディング・ゾーン、中間をニュートラル・ゾーン、相手側のゴールがある氷域をアタッキング・ゾーンという。</p> <p>プレーヤー</p> <p>1チームで氷上に入れるのは6人。</p> <p> ゴールキーパー：1人</p> <p> ディフェンス ：2人（レフトディフェンス、ライトディフェンス）</p> <p> フォワード ：3人（センターフォワード、レフトウイング、ライトウイング）</p> <p>国際パラリンピック委員会（IPC）規則では、試合参加競技者は15名までで、ゴールキーパーが含まれるとされている。</p> <p>氷上の格闘技といわれるこの競技では、試合中は選手の疲労が激しいので、試合中でも選手が交代する。交代は何回でも自由で、氷上で動ける範囲も自由。</p> <p>ただし、ゴールキーパーはセンターラインを越えてプレーできない。</p> <p>試合時間</p> <p>1ピリオド15分の3ピリオド、計45分がプレーしている正味時間。実際はピリオドの間に休憩時間があり、試合中プレーが止まると時計も止めるため、1試合に1時間30分ぐらいはかかる。</p> <p>試合はリンク中央のサークル内で フェイスオフで開始。フェイスオフとは、リンク内に指定されたサークルにおいて、各チーム1名ずつの選手により審判（レフェリー）が落とすパックをスティックで取り合うことをいう。</p> <p>得 点</p> <p>パックがゴールポストの間のゴールラインを完全に越えた場合に得点になる。ゴールライン上に少しでもパックが重なっている間は得点にならない。</p>

※用具の取り扱いと事故防止には十分注意すること。